

第三章では川連漆器そのものを様々な角度から眺め考察した。農村工業として育ってきた川連漆器であるゆえ、その特徴も優美と言うより堅牢である。この堅牢さを作り出している「地塗り」は川連独特の下地法である。

第二番目のテーマ漆器業によりいかなる地域性が編み出されているかといったことを第四章で考察した。私としては第二章を基盤として地域性を描写したかったのだが、結局、農業との関連、生産構造による地域社会、さらに近年導入された仏壇業による変化・影響、この3つから川連の地域性を描くことになってしまった。結論として、川連塗りは農村工業として成長してきて現在も半農半工という性格を強く持ち続けていること、江戸時代からの生産機構があまり変化しておらず、又、農村的事業であることにもより地域が保守的であること、偶然的に導入された仏壇業により川連は現在かなり潤っており、漆器・仏壇とが併存し、将来もおそらく並行していくであろう、だが両者ともこれから一層の研究・開発が必要である、ということが言える。

山梨県南巨摩郡中富町の集落立地

山 本 和 子

中富町は、背後に南アルプスをひかえ、目前には富士川、さらにその向こうには富士山を望むという、一見申し分のない自然環境の中にある。しかし、反面、その自然のために、災害をはじめとし、数々の不利益をこうむる運命にあるといえる。そこで、本論文では、自然環境が人間生活の上にとどのような形であらわれるかを明らかにするため、主に地形・地質の点から、集落立地について、及び集落の農業土地利用について考察することにした。

調査地域の産業別人口構成は、第一次産業 38.9%、第二次産業 30.5%、第三次産業 30.6%、というようになっている。^{*}第二次産業は近年の工場誘致の結果として、増加傾向にあるが、中富町は、ほぼ第一次産業に依存した町であると言ってよい。

中富町の集落は、農業集落カードによると、28集落あり、各々の集落はほぼ完全に独立し、地形・日照・日射等に関するそれぞれの自然的立地条件を反映し立地していると考えられる。また、当然のことながら、交通のような人文条件も立地条件にあげられよう。

論文の方針としては、まず地形面の分類を行い、集落がどの地形面にのるかを見てみた。分類された地形面のうち、集落（この場合、耕地は含まない）ののる地形面は、山稜緩斜面・山腹緩斜面・山麓緩斜面・上位段丘面・下位段丘面等の平坦な地形面であった。特に山稜緩斜面・下位段丘面に立地する集落が多い。ここで、中富町の地形概観を明らかにしておく必要がある。中富町の西半は山地地域で、山稜緩斜面は、この地域の標高700m程の所に連らなる。東半は、富士川に沿った低地地域で、下位段丘面は、この地域に集中する。国道52号線がこの地域を富士川に沿って走り、このことから、集落の規模の点では、下位段丘に立地する集落の方が大きいと言える。

次に、地形面と農業土地利用について考察した。農業土地利用は、集落別作物結合型、及び、水田率・畑地率・樹園地率で代表させた。一般的にいって、下位段丘面では、稲作が多く、その他の山間

の緩斜面では、桑園が多いと言える。

以上の分析の総合的な結果として、農業集落区分を行った。(図参照)

＊ 1970年国勢調査

A：下位段丘立地集落

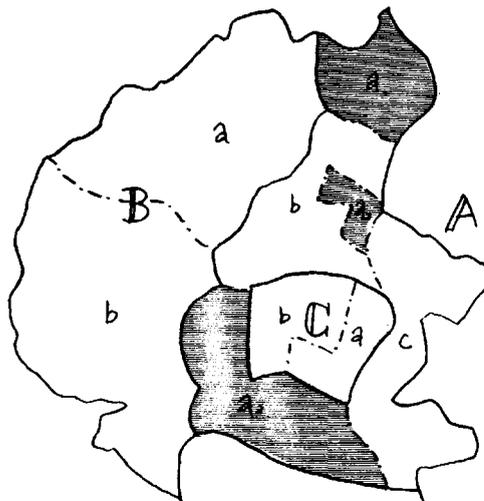
- a 水田卓越集落
- b 桑にも少し依存
- c " (富士川東岸)

B：山間の緩傾斜地立地集落

- a 稲作をある程度行うが桑へ依存度大
- b 稲作をほとんど行わず桑へほとんど依存

C：山腹緩斜面立地集落（烏森山周辺）

- a 畑地率高い
- b 桑が多い



農業集落区分図

烏海山麓の開拓地に関する地理学的研究

清水明子

烏海山は、秋田県と山形県にまたがる標高2,237 mの火山である。この烏海山の100 mから400 m位の高さの所には、戦後に入植した開拓地が30部落ほどある。

これらの開拓地に入植したのは、敗戦のために職を失った軍人・工員や、外地からの引揚げ者、地元農家の二・三男たちであった。開墾は、鍬を使って人力で進められた。最初のころは、自給自足のため、大豆・小豆・陸稲・ばれいしょなど、どこの開拓地でも似たような作物を作っていた。ところが30年ほどたった現在では、酪農専門の所、水田の多い所、兼業が主で農業は盛んでない所など、部落ごとに個性が出てきている。

秋田県由利町の雨由利原は、入植後の離農者が多かった開拓地である。現在では農家戸数11戸で、酪農中心にある程度安定してきてはいるが、それぞれの開拓者が今の経営に到達するまでには、たいへんな苦勞があった。

まずここは、満州開拓の経験者が多く、敗戦のため引揚げを余儀なくされた後、入植してきている。また、冬季の積雪は2～3 mにも達することがあり、現在もまだ通年除雪路線からはずれている。そのため牛乳は往復3時間近くもかけて、ソリで出荷しなければならない。牧草の刈り取りなどは、まだ人力に頼る部分が多いし、搾乳は一年中休みなしの仕事なので、家族ぐるみの重労働になっている。